2016 展望

建設工業新聞　2016.1.15　2面

2016展望

建設コンサル

福山コンサルタント

**福島 宏治社長**

# 新たな経営戦略の形を決める

前期（15年6月期）は売上高が2期連続で60億円を超え、子会社の再編効果もあり純利益が上場以来の最高となった。今期は15年11月時点で業務量が前年同期の1・2倍に伸びている。足元の建設コンサルタント事業が堅調で将来に向けた新規事業の芽もいくつか出てきた。将来のM&A（企業合併・買収）を視野に入れた自社株取得などの財務・資本戦略も併せて実行した年だった。

16年度は、13年7月にスタートした6カ年の「第3次長期経営プラン」の後半に入る。前半を総括しながら、プランを見直し中だ。国の16年度予算案では、公共事業の予算と内容が老朽化対策や長寿命化にシフトしてきている。これを踏まえ、人員配置など一部を見直す。ただ、最終年度の連結売上高100億円という目標値は変えない。

課題は人材不足、特に得意分野である道路交通系などの技術者不足だ。この問題への対応として、労務環境の改善に向けて昨年、ワークライフバランス、報酬体系の二つのワーキンググループを立ち上げた。今後、これらを中心に改善に取り組む。

海外展開は、ベトナムで進めている物流関係の案件化調査などを通じて感覚的に慣れていければと思っている。スマートフォンを利用した人の移動データなどの調査ツールも今後、本格的に市場に投入していきたい。

持ち株会社化に向け、グループの管理部門を集約する新会社の設立準備もほぼできている。九州と関東の2極構造、新規事業の推進、企業集団としての運営手法の確立など今年は今まで取り組んできた経営戦略が収れんし、形が決まる年になるという予感がある。